

35. ICT (情報通信技術) を活用した新しい授業デザインの検討

基本医学 情報教育部門 (兼務: 情報基盤センター)

山下真幸, 上西秀和, 坂田信裕

現在検討されている授業時間の短縮への対応を含め, 本学において ICT をどのように授業で活用できるかの検討材料とするため, LMS (Learning Management System) と無線 LAN の整備・利用状況を概観した。

LMS の利用は 2011 年 4 月の導入以来, 利用授業数, ログイン数ともに着実に増加している。情報系の授業における LMS からの配付資料のダウンロード数をみたところ, 紙資料を授業時に配布しない場合は 70% 以上, 紙資料を配付した場合でも 40% 以上の学生がダウンロードしており, LMS による資料配付は学生に積極的に利用されていることが示唆された。導入以来毎年行ってきた学生へのアンケートでは, 一貫して LMS への利用に対して肯定的な回答が大半を占める状況が続いている。以上から, 学生においては LMS の利用は積極的に行われており, 抵抗感も薄いことが示唆された。

無線 LAN (通称 DARWiN) は, 2010 年 9 月にサービスを開始し, 2013 年にシステム強化とアクセスポイントの大幅増加 (149 台) を行い, 現在アクセスポイント総数は約 170 台となり, 大学のほぼすべての講義室で利用可能となった。利用数は一貫して増加しており, その大半を学生が占めている。2013 年 11 月時点では, 医学部生の 77%, 看護学部生の 46% が DARWiN を利用している。

以上の結果から, LMS と無線 LAN を用いた授業を, PC のある教室だけでなく一般教室でも行い得る環境が整備されてきたことが示唆された。すでに実施されている授業での LMS を用いた試みには以下のようなものがある。1. 予習, 復習課題を LMS で出し, 授業中に解題, 2. 小テスト, 3. レポート提出と添削, 4. 授業中の掲示板でのディスカッション。

36. ロボット支援手術は前立腺全摘術の周術期パラメータおよび機能的成績を改善した

獨協医科大学 泌尿器科学 前立腺センター

安士正裕, 西原大策, 水野智弥, 幸 英夫, 増田聡雅, 神原常仁, 別納弘法, 阿部英行, 深掘能立, 釜井隆男

【目的】2012 年 10 月よりロボット支援前立腺全摘術 (Robot-assisted radical prostatectomy, RARP) を開始し, 8 割強が RARP に移行している (緑内障, 脳動脈瘤, 高度な腹腔癒着例を除外)。これまでの開放手術 (RRP) と比較してどのような変化がもたらされたのか記述統計による検証を行った。

【対象・方法】RRP30 症例と RARP60 症例の周術期パラメータおよび病理学的, 機能的成績を比較した。

【成績】平均値または比率の比較において RRP vs RARP は, 出血量 (976 vs 272 ml), 尿道カテ抜去日数 (8.5 vs 5.8 日), 入院日数 (15.3 vs 10.6 日), 神経温存率 (13.3 vs 76.0%), 1 ヶ月尿禁制率 (40.7 vs 62.2%) において RARP は有意に改善していた ($p < 0.01$)。Clavien grade 3 合併症率 (10.0 vs 1.7%), 病理学的断端陽性率 (10.0 vs 18.0%) においては差がなく, 総手術時間 (173 vs 220 分) は有意に長くなったが, RARP コンソール時間 179 分との比較では差がなかった。勃起機能は RARP 症例の 22% において様々なレベルでの回復が確認された。

【結論】すでに完成されたとと思われる RRP の手術成績を凌ぐ結果であった。獨協医大でのロボット手術は, 出血が少ない良好な視野で神経温存や尖部処理が的確にでき, その結果, 早期の尿禁制および性機能回復と入院日数の短縮が達成されている。